

# いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

6月号 発行 平成25年 6月 25日



## 〈東日本大震災関連〉



### いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の5月の農林畜産物の放射性セシウムのモニタリング調査結果をお知らせします。

調査した19品目69検体のうち、16品目62検体は、検査機器の検出限界値以下でした。基準値内で検出のあった5品目は、うわばみそう（野生のものに限る。）、もみじがさ（しどけ。野生のものに限る。）、ふき（野生のものに限る。）、うど（野生のものに限る。）、牛肉で、基準値を超えたものは、さんしょう（野生のものに限る。）だけでした。品目としては、トマト（施設）、原乳、ホウレンソウ、菌床しいたけ（施設）、菌床なめこ（施設）、豚肉、キュウリ（施設）、ミツバ、ミツバ（施設）、タラノメ、サニーレタス、コマツナ、葉ネギ（施設）の検体すべてにおいて検出が認められませんでした。

5月31日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、ユズ、くり、たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る。）、わらび、こしあぶら、野生きのこ、原木なめこ（露地栽培）となっており、新たに5月15日に、さんしょう（野生のものに限る。）が出荷自粛となりました。

また、平成24年産の米は、全袋検査を実施しており、5月末までの検査点数519,372点のうち99.7%の517,838点が測定機器の測定下限値未満、1,533点が基準値内で検出が確認されました。もち米1点が基準値を超過しましたが、管理されており、市場には出回っておりません。調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、24年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

(表1) 農林畜産物の調査結果 (5月)

放射性セシウムが未検出の品目と検体数	放射性セシウムが検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超過した品目と検体数	
13品目 62検体	5品目 6検体	1品目 1検体	19品目 69検体

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

トマト（施設）6	原乳5	ホウレンソウ4
菌床しいたけ（施設）3	菌床なめこ（施設）2	
豚肉2	キュウリ（施設）2	ミツバ1
ミツバ（施設）1	タラノメ1	サニーレタス1
コマツナ1	葉ネギ（施設）1	

○ 福島県が行った、いわき地方の5月の農林畜産物の放射性物質モニタリング調査の結果、さんしょう（野生のものに限る。）に基準値を超える放射性セシウム（330ベクレル/kg）が検出され、5月15日（水）に出荷自粛となっています。

## 〈一般情報〉



### いわき地区広域農道促進期成同盟会総会が開催されました

5月15日（水）、広域営農団地農道整備事業「いわき地区」の整備促進を目的に活動している「いわき地区広域営農団地農道整備促進期成同盟会」の総会が開催され、いわき農林事務所では、これまでの整備状況、今後の事業計画や今年度の工事内容について説明を行いました。

当該地区では、市北部の中山間地域の農業振興や地域住民の生活向上を図るための重要な路線として、平成3年度から小川町と四倉町をつなぐ道路整備事業を実施しています。総延長11kmのうち、小川町福岡～小川町柴原の4km区間は、既に通行可能であり、今年度中には四倉町八茎までの約1.7km区間が通行できるようになる予定です。

四倉町側の区間で残っている大規模な工事として、仁井田川に架かる長さ157mの橋の工事がありますが、平成24年度から工事が始まっており、平成27年度の完了を目指しています。

一方、小川町側の残る工事区間には、橋の建設や大規模な土砂掘削への対策などがあるため、詳細な調査・設計を実施しながら工事の着手に向けて準備しているところです。

いわきの地域振興のため、農林事務所職員一丸となって事業を進めてまいります。



(四倉側 舗装工事・法面保護工事)



## いわき木材流通センター 創立18周年記念市が行われました

5月17日(金)、いわき市遠野町にあるいわき木材流通センターの創立18周年記念市及び記念式典が行われました。

記念式典には、林業・木材関係者約50名が出席し、福島県森林組合連合会の國井代表理事会長のあいさつの後、いわき農林事務所長が、同センターが長年にわたり県産材の安定供給に努められていることに対して謝意を述べるとともに、震災・原子力災害からの復興に向け本格化する復興住宅等需用への木材供給に果たす同センターへの期待について述べました。

記念市では、いわき市の素材を中心として約2,500㎡の材が取引されました。



(國井代表理事会長のあいさつ)



## 林業活性化センター通常総会が行われました

5月22日(水)、いわき市平のいわきワシントンホテルにて、磐城流域いわき地区林業活性化センター第5回通常総会が行われました。

林業活性化センターは、民有林・国有林を一体とした、森林整備から素材生産・加工・流通までの体制整備等の取組みを推進し、地域の森林・林業の活性化を図ることを目的として設立された組織です。

総会では、今年度の事業として、木材の利用促進に向けた先進地調査や講習会等の開催のほか、労働安全に関する講習会や森林環境学習支援等を実施することが話し合われました。

また、長年にわたり理事長を勤めてきた根本藏氏に変わり、新たな理事長として田子英司氏が選任されました。



(総会の様子)



## 赤井小学校5年生、田植えに挑戦!

昨年度に引き続き、いわき市立赤井小学校で「田んぼの学校」を開校しました。これは、県の「ふくしまの農育推進事業」により、地元農家の協力を得ながら、地域の未来を担う子どもたちが年間を通じて行う体験学習の中で、農業の大切さ、農作業の楽しさや大変さ、収穫の喜びを経験し、農業・農村の持つ様々な役割について学ぶものです。

5月28日(火)、第1回の活動となる「開校式・田植え」を行いました。青空の下、5年生59名が地元農家の根本俊男さんの協力で、元気いっぱい田植えに励みました。赤井小学校体育館で開かれた開校式では、児童代表が「4年生の頃から楽しみにしていたので、秋に美味しいお米がとれ



るようがんばりたい。」と抱負を述べました。その後、児童は、いわき農林事務所職員から田んぼの学校の概要や作業内容の説明を聞き、準備を万端にして学習田へ出発しました。

初めて水田に入る児童も多くいましたが、児童たちは泥だらけになりながらも一生懸命田植えをしました。水田の中で行われた児童間の“苗の受け渡し”も見事なチームプレーでとても上手にこなすなど、作業も大変効率的に進んだことから、予定よりも早く5アールの田植えを終えました。根本さんからは、「植える（目印の）線を意識して植えていた児童が多く、田んぼの仕上がりも良い。」とお褒めの言葉をいただきました。

今回は、7月頃、稲の分けつ調査、田んぼの生き物調査と水質調査に挑みます。



(一生懸命田植えをしました)



(泥だらけになったけど大成功！)



### 福島県高病原性鳥インフルエンザ・口蹄疫対策連絡会議が行われました

5月29日（水）、福島県いわき合同庁舎において、福島県高病原性鳥インフルエンザ・口蹄疫対策いわき地方連絡会議が開催されました。

「高病原性鳥インフルエンザ」及び「口蹄疫」は、家畜伝染病法で指定された法定伝染病であり、ともに伝染性が強いという特徴があることから、発生した場合は迅速な対応が求められます。また、近隣アジア

諸国では断続的に発生しており、人や物を介した国内への侵入リスクは依然として高い状況にあります。

会議では、家畜保健衛生所職員から各伝染病の発生状況や防疫対策についての説明があり、農林事務所と市役所・関係団体等との連携による防疫体制の確認を行いました。

今後は、11月に2回目の開催を予定しており、その際は発生を想定した演習を行う予定です。



(“もしも”の時の対応を協議しました)



### ふくしま地域産業6次化復興ファンド説明会が開催されました

5月31日（金）、福島県いわき合同庁舎で、「ふくしま地域産業6次化復興ファンド説明会」が開催されました。

このファンドは、東日本大震災及び原子力災害により甚大な被害を受けた本県農林水産業の復興を目指し、あわせて地域産業6次化を推進するために、県や地域金融機関等が連携協力して創出した新たな投資型地域ファンドです。

説明会には、市内の事業者や関係団体など約50人が参加しました。

まず、福島県農林水産部の安海食産業振興監から「ファンドをうまく活用し、復興のシンボルとなる事業が創出されることを期待している。」とのあいさつがあり、続いて県の担当者から福島県や関係団体を実施する平成25年度6次化関連事業について説明がなされた後、今回のメインである「ふくしま地域産業6次化復興ファンド」について、ファンドを運営する福島リカバリ株式会社より説明がありました。農林漁業者と2次産業・3次産業事業者が合併した6次産業化事業体にファンドが出資することにより農・商・工の戦略的連携を実現し、地域産業6次化を推進するファンドの狙いや仕組み、事業体の設立方法、想定されるファンドの活用例などについて詳しい説明が行われました。

国や県の従来の補助事業や融資制度と異なり、事業者の裁量で柔軟に資金を活用できる全国でも例がない新しい仕組みであるため、福島県の豊かな農林水産資源を基盤とした新たな産業の創出が期待されます。

#### ※地域産業6次化

農林水産業（1次産業）、商工業（2次産業）、サービス業（3次産業）が連携・融合し、新たな付加価値を創出する取組みのこと。



（地域産業6次化の推進を6次化復興ファンドが後押しします）



### 「いわきゴールド椎茸」“大感謝祭”が開催されました

6月2日（日）、いわき市渡辺町の農事組合法人いわき菌床椎茸組合で「いわきゴールド椎茸」“大感謝祭”が開催されました。

同組合が生産・販売している「いわきゴールド椎茸」やいわきの農産物の魅力を消費者に知ってもらい、いわきの農業の復興を目指すことを目的としています。

会場では、震災直後から炊き出しなどのボランティア活動をされているNPO法人Power of Japanに所属し、東京で活躍中の料理人らがいわき産の農産物を使った和食や中華、フレンチ料理を振る舞い、来場者はおいしい料理に舌鼓を打っていました。

また、「いわきゴールド椎茸」を使ったいわきゴールド椎茸焼酎やいわきゴールド椎茸うどんなどが当たるくじ引き大会が行われ、来場者に向けて6次化商品を広くPRしていました。



（会場の様子）



### 「新たなふくしまの未来を拓く園芸復興プロジェクト」が始動！

福島県の園芸振興については、平成22年度から「園芸ふくしま創造プロジェクト」を展開してきましたが、東日本大震災及び原子力災害の影響により、これまでにない危機に直面しています。この厳しい現状を乗り越え、園芸部門の発展により本県農業の力強い復興を成し遂げるため、平成25年度から平成32年度までの8か年計画でプロジェクトを見直し、「新たなふくしまの未来を拓く園芸復興プロジェクト」を展開することになりました。

6月6日（木）、いわき市、いわき市農業委員会、JA全農福島、JAいわき市、JAいわき中部及びいわき農林事務所が一堂に会し、「新たなふくしまの未来を拓く園芸復興いわき地方推進会議」を設置しました。いわき地方では、「いちご」、「ねぎ」、「日本なし」の3品目をプロジェクト品目に掲げ、農業従事者の収益向上とともに消費者・実需者から信頼される産地づくりをこれまで以上に集中して支援していくことを確認しました。会議では、これら3品目の園芸産地復興計画（前期4か年）が承認され、関係機関が一致団結して取り組むこととなりました。



（会議の様子）





## カツオの水揚げ本格化！

小名浜港へのカツオの水揚げが本格化しています。

カツオは、福島県に水揚げされる魚介類の中では、数量・金額ともに最も多い魚です。また、総務省の家計調査によると、県庁所在地でのカツオの消費量が全国第二位であることから察するに福島県民がカツオ好きであることが窺えます。

しかし、震災後は風評被害によって、福島県への水揚げは激減してしまいました。カツオは太平洋を大回遊する魚なので、今回の原発事故の影響はほとんど受けていませんが、福島県への水揚げということで敬遠され、一昨年は19トンしか水揚げがありませんでした。

このような中、県漁連、漁協、量販店、市、県などが協力し、昨年からカツオのPR活動が始まりました。その努力が実り、昨年は267トン、今年は6月12日現在で160トンを超える水揚げがありました。震災前は1万トン以上あった年もあるので、それからみれば程遠い量ですが、一步一步、着実に前進するよう、関係者と協力して進めていきたいと思えます。

6月7日（金）には、いわき市平のイオンいわき店においてカツオのPR販売が行われ、脂がのった新鮮なカツオは大変好評を得ていました。今後もおいしいカツオが県内に流通しますので、ぜひ、初夏の味をお楽しみください。



(小名浜港にカツオの水揚げ)



(試食会や抽選会が行われました)



## いわきの観光農園・農産物情報ガイドが完成しました

いわき農林事務所では、いわき市内の観光農園や直売所の情報をまとめた「いわきの観光農園・農産物情報ガイド」を作成しました。

いわきの野菜や果物が四季を通じて楽しめることを、ぜひ手にとって確認してみてください。

いわき市内のお店や観光地に配布中！



## 食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日（7月は8日(月)）に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。

なお、内容は変更される場合がありますのでご了承ください。

### 1 純中国料理 大雅（佐糠町）

推進日を含む毎日のメニュー：①冷し中華 ②ピーマンと牛肉の細切炒め

説明：県産の農産物を使用しています。 ①キュウリ ②ピーマン

2 北の屋（いわき市植田町）

推進日を含む毎日のメニュー：①天ざる ②天ぷらごはん ③ぬか漬け  
説明：県産の農産物を使用しています。 ①②ピーマン ③キュウリ

3 一膳（平字童子町）

(1) 推進日のメニュー：セットメニュー

説明：いわきのサバ干物（いわき産米を使用）に地産サラダがセットされています。7月18日、28日にもメニューを替えて取り組む予定です。

実施日：7月8日（水）

(2) 推進日を含む毎日のメニュー：生野菜サラダ

説明：いわき産の農産物を使用しています。

4 いわき食彩館株式会社 スカイストア（平字一丁目）

推進日を含む毎日のメニュー：①注文弁当 ②日替わり弁当 ③惣菜

説明：いわき、福島県産の安心・安全な食材をふんだんに活かした料理を楽しんでください。

## いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますので  
どうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧

2 イベント情報

3 農林水産物モニタリング情報

(1) モニタリング情報検索

(2) 出荷制限等一覧表

「東日本大震災」

及び「原発事故」からの

復興のために！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

（県いわき合同庁舎 3階）

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

いわき農林水産ニュース

